

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果（3/24-4/1）

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内5地点で毎日収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度(ミリベクレル/m³)を測定しました。
(ミリベクレル/m³)

	採取日	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1
川房公会堂 (小高区川房)	Cs134	不検出	不検出							
	Cs137	0.25	不検出	0.16	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
横川ダム (原町区馬場)	Cs134	不検出	不検出							
	Cs137	0.21	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.2	不検出
原町保健センター (原町区小川町)	Cs134	0.19	不検出	不検出						
	Cs137	0.44	0.18	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
高平生涯学習センター (原町区下高平)	Cs134	不検出	不検出							
	Cs137	0.23	0.19	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.21	不検出
鹿島区役所 (鹿島区西町)	Cs134	不検出	不検出							
	Cs137	0.67	不検出	不検出						

検出限界値は概ね0.2ミリベクレル/m³です。検出限界値未満の値は「不検出」と表記しています。

平成26年度最後の大気浮遊じん測定は、平成27年3月24日から4月1日におこなわれました。その結果、春の嵐が吹き荒れた3月24日に全測定地点でセシウム137の飛散が観測されました。しかし、放射性物質濃度は、最高で0.67mBq/m³という僅かな濃度に留まっており健康影響を心配することはありません。平成26年度中に南相馬市が実施した大気浮遊じんの放射性物質濃度の測定結果を振り返ってみると、一番濃度が高い日で3.2mBq/m³（平成26年12月10日の川房公会堂）であり、全て健康影響が予想される濃度に遠く及ばないものでした。この結果は、県や国がおこなっている大気浮遊じん測定結果と一致しています。平成27年度には、更に測定地点を5箇所増やして大気浮遊じんの放射性物質濃度の測定を続けて参ります。

注：人間が一日に呼吸する空気の量は、成人でおよそ15m³程度ですので、最も飛散量の多かった日の空気を一年中吸い続けたとしても、体内に取り込まれるセシウム137の量は、一日あたり48 mBq（3.2mBq/m³×15m³）、一年間で17,520mBq（48 mBq × 365日/年）にしかありません。仮にその放射性物質を全て体内に取り込んだとしても、それによって身体が受ける被ばく量は、取り込んでから50年間に0.68 μSv程度（17.5 Bq/人 × 0.039 μSv/Bq/人 = 0.683 μSv）に留まり健康に影響がでるものではありません。